

単元	1 じこしょうかいゲームをしよう (『よく聞いて、じこしょうかい』)	4月(1時間…A1)
目標	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えながら積極的に相手を見て話したり聞いたりすることができる。	
活動	友達と自己紹介ゲームをする。	
評価 規準	(①知・技) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(I)イ (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えている。(A(I)エ) (③主体的態度) 積極的に相手を見て話したり聞いたりし、話の中心を捉えることに関わる課題の解決に向けて、自己紹介をしようとしている。	
	○自己紹介ゲームをする。 ○国語の学習の進め方を知る。	
	【備考】 自己紹介ゲームについて ○テーマに沿って、自分の好きな事物を1つ考え、5～6人のグループで前の人のお話を繰り返しながら順番に自己紹介をし合う。 ※テーマの例・・・好きなスポーツ、好きな食べ物、好きな動物、好きなキャラクター(好きな○○、苦手な○○等) ○自分の好きな事物を1つ考えて、クラス全員で前の人のお話を繰り返しながら順番に自己紹介し合う。	

単元	2 詩を楽しもう (『どきん』)	4月(1時間…C1)
目標	感想や考えをもちながら、詩を楽しんで音読することができる。	
活動	『どきん』を音読し、感じたことを友達と伝え合う。	
評価 規準	(①知・技) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(I)ク (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(I)オ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(I)カ) (③主体的態度) 積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識しながら、詩の楽しみ方に関わる課題の解決に向けて、楽しんで音読しようとしている。	
	○『どきん』を音読し、感じたことを友達と伝え合う。	
	【備考】 ○詩の音読の楽しさを味わうことができるよう、観点として「擬声語＝オノマトペ」を複数提示し、身振りや強弱を工夫して読む機会を設定する。 ○教科書p14「つづけてみよう」を取り上げ、年間を通した継続的な活動を始める機会を設定する。	

単元	3 楽しく書こう (『わたしのさいこうの一日』)	4月(1時間…B1)
目標	「さいこうの一日」を想像して、したいことや起こってほしいことの中から書くことを選ぶことができる。	
評価 規準	(①知・技) 様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 文章の中で使っている。(C1) 才 (②思・判・表) 「書くこと」において, 相手や目的を意識して, 経験したことや想像したことなどから書くことを選び, 伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度) 経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び, 学習課題に沿って日記を書こうとしている。	
○「さいこうの一日」の日記を書くことを知り, したいことや起こってほしいことを書き出す。 ○「さいこうの一日」の日記を書く。 ○書いた日記を読み合い, 感想を伝え合う。		

単元	4 読んで、そうぞうしたことを聞き合おう (『春風をたどって』)			4月(9時間…C9)
目標	物語を読み、想像することと音読することを繰り返し、登場人物の行動や気持ちなどについて具体的に想像することができる。			
議題	物語を読み、想像したことを聞き合う活動			
評価規準	(①知・技)全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) (②思・判・表)「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) (③主体的態度)進んで登場人物の行動や気持ちを捉え、学習課題に沿って、読んで想像したことを聞き合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『春風をたどって』を読んで感想を書き、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 「ルウ」の気持ちを詳しく想像して、お話の続きを考えよう	○具体的に想像することに対する課題意識を高められるよう、「春風の違い」を観点として提示する。	◇積極的に『春風をたどって』の登場人物の行動や気持ちなどについて興味をもち、これまでに学習した文学的な文章の学習を想起しながら、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	5 1	○「ルウ」の行動や気持ちについて想像したことを聞き合う。 ○物語の続きを想像して、ノートに書く。	○具体的な行動から「ルウ」の気持ちを想像できるよう、それぞれの場面における風の感触を観点として提示する。 ○これまで想像してきた行動や気持ちを基に物語の続きを考えられるよう、「出合った景色」「春風の様子」を観点として提示する。	◇嗅覚や触覚等に関する叙述を基に、登場人物の行動や気持ちについてより具体的に想像したことを記述している。 <発言・本文シート②> ◇1の場面で出てくる3つの写真を基に、「ルウ」が出合った景色を設定して、物語の続きを記述している。 <発言・ノート①>
ふりかえる	1 1	○物語の続きを読み合い、単元の学習の振り返りをする。 ○まとめテストを行う。	○単元の学習に対する達成感を得ることができるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、「嗅覚や触覚等に関する叙述を基に想像したこと」に触れ、そのよさについて発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○教材として、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。 ○想像する際の視点として、「見る位置」(「(登場人物に)なって感じる」「(登場人物を)見て気付く」と、「見方」(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を提示する。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

〈読書〉(『図書館たんていだん』)		4月(1時間…知・技1)
目標	読書の価値に気付いたり、図書館の利用の仕方について知ったりすることができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ (③主体的態度) 図書館利用に関わる課題の解決に向けて、図書館利用に関わることを進んで知ろうとしている。	
○図書室に行き、内容による本の分類があることを知る。		
【備考】 ○本の分類を理解するには、図書室の地図を作ったり、指定した本がどの棚にあるか予想して確かめたりするとよい。 ○R6, 7は、司書に依頼し、分類表についての簡単な説明をしていただいた。		

〈言葉の学習〉(『国語辞典を使おう』)		4月(2時間…知・技2)
目標	国語事典の使い方を理解し、使うことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ 辞書の使い方を理解し使っている(2)イ (③主体的態度) 辞書の使い方に関わる課題の解決に向けて、進んで辞書の使い方を理解し使おうとしている。	
○国語辞典を開き、国語辞典の仕組みや見出し語の並び方の決まりを知り、「ホール」「ボール」「ポール」や「凍る」「交流」「ゴール」等、長音を含む言葉の配列を実際に調べる。 ○活用する語の探し方を知り、「かく」「ふかい」「しずか」などを実際に調べたり、清音、濁音・半濁音、促音、拗音の配列を実際に調べたりする。		
【備考】 ○H29～は、大学から国語教育講座の河内先生をお招きして第1時を指導していただいた。(R6, 7は実施していない。)		

〈言葉の学習〉(『漢字の広場①』)		4月(2時間…B2)
目標	学習した漢字を使い、絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに学習した漢字を確認め、今までの学習を生かして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。	
○教科書の絵を見て、動物の様子や人間がしていることなどについて説明し合い、漢字を用いた文を書く。 ○書いた文を発表し合う。		

〈言葉の学習〉(『春のくらし』)		4月(1時間…B1)
目標	春を感じたことについて、文章に書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度) 積極的に語句の量を増やし、春を感じる言葉に関わる課題の解決に向けて、その季節らしさを表現した文章を書こうとしている。	
○校庭や地域に出て、春らしさを感じるものを見つけ、集めた言葉でビンゴをする。 ○身の回りで見つけた春らしさを感じるものについて文章を書き、書いたものを友達と読み合って交流する。		

〈言葉の学習〉(『漢字の音と訓』)		5月(2時間…知・技2)
目標	漢字の音と訓を意識して読んだり書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) (③主体的態度) 今までの学習を生かして、進んで漢字の音と訓という考え方に関心を持ち、よりよく漢字を学ぼうとしている。	
○教材文を読み、「音」と「訓」の特徴を知り、複数の読みのある漢字を国語辞典や教科書から集める。 ○集めた漢字で短文作りをし、使い分けを練習する。		

単元	5 みんなでできる遊びを聞き合おう (『もっと知りたい, 友だちのこと』『きちんとつたえるために』)			5月(6時間…A6)
目標	知らせたいことを話したり, 知りたいことを質問したりすることができる。			
議題	2年生のときに楽しかった遊びについて, 質問したり, それらを発表したりする活動			
評価規準	(①知・技) 相手を見て話したり聞いたりするとともに, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意して話している。(A(1)イ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において, 日常生活の中から話題を決め, 伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において, 必要なことを質問しながら聞き, 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉え, 自分の考えをもっている。(A(1)エ) (③主体的態度) 積極的に質問しながら聞くことで話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉え, 学習の見通しをもって, 知らせたいことを話したり, 知りたいことを質問したりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○これまでに経験した遊びを振り返り, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 学習課題 みんなで遊べる遊びの紹介を聞き合い, 聞き上手になろう	○よりよい聞き方に対する課題意識を高められるよう, 遊びの情報が分からないことが原因で困った経験について伝え合う活動を設定する。	◇積極的に中心を捉えることに興味をもち, これまでに学習した話し方や聞き方を想起しながら, 学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言③>
ふかめる	2 2	○2年生の時に経験した遊びの紹介文を考える。 ○友達の遊びの紹介を聞き, 質問と修正を繰り返す。	○紹介文の中心を明確にして文章を書けるよう, 「時間」「場所」「ルール」等, 聞き手が必要とする情報を観点として提示する。 ○言葉の強弱, 抑揚, 間の取り方等に気を付けながら話すことができるよう, 伝わりやすい話し方について話し合う機会を設定する。 ○実際に遊ぶために必要な質問を検討できるよう, 「時間」「場所」「ルール」等, 遊びの紹介に必要な情報を聞く際の視点が記された学習プリントを用意する。	◇聞き手が必要とする情報を基に, 遊びの紹介に必要な内容を選んでいく。 <学習プリント②> ◇遊びの紹介を話したり聞いたりする際に, 相手を見たり, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意したりしている。 <行動(録画)①> ◇遊びの紹介において, 積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き, 課題の解決に向け, 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉え, 自分の考えを記述している。 <ノート②>
かふえり	1	○学習の振り返りをし, よい聞き方について話し合う。	○今後の聞き方に生かそうとする意識を高められるように, 質問したことと, 上手に遊べた理由との関わりを記述する学習プリントを用意する。	◇学習課題の解決状況に関わって, 話し手が伝えたいこと の中心を捉えて記録したり質問したりしながら聞くことに触れ, 今後 に生かそう な話の聞き方について記述している。 <学習プリント③>
【備考】 ○実際に遊ぶために必要な情報を, 必要感をもって聞き合えるように, 遊びの経験が異なるグループを編制する。 ○互いに紹介した遊びで実際に遊ぶ時間を設ける。 ○コラム「きちんとつたえるために」については, 「つかむ」過程で課題意識をもつ際に活用する。または, 「ふかめる」過程で, 質問の質を向上させるために活用する。				

単元	6 分かりやすく伝えるには (『文様』『こまを楽しむ』『全体と中心』)		5月(9時間…知・技1, C8)	
目標	文章の構成に気を付け、段落の役割を捉えながら、文章を読むことができる。			
議題	分かりやすい文章の書き方のコツについて考えたことを説明する活動			
評価規準	(①知・技) 段落の役割について理解している。((1)カ) 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) (③主体的態度) 進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを文章にまとめようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『文様』を読み、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 分かりやすい文章の書き方のコツを発見しよう	○文章の書き方の工夫に対する課題意識を高められるよう、「よく分かったこと」「分からなかったこと」を観点として提示する。	◇積極的に説明的文章の構成や段落の役割、及びそれらの関係について関心をもち、これまでに学習した説明的文章の学習を想起しながら、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	1 5	○『文様』を読み、文章構成を捉える。 ○『文様』と『こまを楽しむ』を比べながら読み、文章構成を捉える。	○「始め-中-終わり」の役割に気付けるように、文章内容に着目して、順序を並び替えることができる段落カードを用意する。 ○『文様』との共通性に着目できるように、文章内容に着目して、『こまを楽しむ』を「はじめ-中-終わり」の構成に分ける活動を設定する。	◇『文様』『こまを楽しむ』の構成や段落の役割について順序性に関わって考えたことを記述している。 <学習プリント①> ◇『文様』『こまを楽しむ』の構成や段落の役割を結び付けながら、複数の叙述を根拠に説明の仕方について考えたことを記述している。 <学習プリント②>
かふえりる	1 1	○学習を通して発見した、分かりやすい文章の書き方のコツについて話し合う。 ○まとめテストを行う。	○文章の構成や段落の役割に着目して考えをまとめられるように、「始め-中-終わり」、「段落のつながり」を観点として提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に説明的文章の構成や段落の役割に着目して、今後に生かせそうな分かりやすい文章の書き方のコツについて記述している。 <ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○本単元の学習に入る前に、試しの説明文を書く活動を行ったり、本単元の学習終了後に、本単元の学習を生かして説明文を書く活動を行ってもよい。(「分かりやすく報告しよう」との関連が図れるとよい。 ○「ふかめる」過程の中で、p65『全体と中心』を扱う。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

単元	7 手紙を書こう (『気持ちこめて「来てください」』)			6月(4時間…B4)
目標	間違いを正したり, 相手や目的を意識した表現を使ったりして依頼やお礼を伝える手紙を書くことができる。			
議題	行事を案内する手紙を書く活動			
評価規準	(①知・技) 丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(I)キ (②思・判・表) 「書くこと」において, 間違いを正したり, 相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして, 文や文章を整えている。(B(I)エ) (③主体的態度) 相手や目的を意識して, 伝えたいことを進んで明確にし, 学習課題に沿って, 丁寧な言葉を使って行事を案内する手紙を書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○手紙を書いたりもらったりした経験や, 手紙を書く目的や相手について話し合い, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 学習課題 いろいろな手紙の書き方を知り, 伝えたいことを手紙に書こう	○手紙を書くことへの課題意識を高められるよう, 目的の異なる複数の手紙を例示する。	◇手紙の文や文章の整え方に関わって, 手紙を書くことへの関心を高め, 学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	1 1	○手紙を送る相手を決め, 同じ相手に決めた友達とのグループを編成し, 手紙の内容を考える。 ○形式に沿って手紙を書き, 読み返す。	○手紙を送る相手を決めることができるように, 1学期にお世話になった人を例示する。 ○手紙の形式に沿って手紙を書けるように, 例文を提示する。 ○手紙の修正点に気付けるように, 「丁寧な言葉遣い」「書き方」を手紙を読み返す観点として提示する。	◇手紙を送る相手や目的, 手紙で伝えたいことを記述している。 <学習プリント②> ◇丁寧な言葉を使って, 手紙を書いたり書き直したりしている。 <手紙①> ◇「丁寧な言葉遣い」「書き方」の観点で手紙の表現を見直し, 手紙を書いたり書き直したりしている。 <手紙②>
かふえりる	1	○学習の振り返りをする。	○学習したことのよさを実感できるよう, これまでに書いた手紙と今回書いた手紙とを並べて提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって, 進んで適切な手紙の形式や表現に着目し, 今後に生かせそうな手紙の書き方について記述している。 <発言・ノート③>
【備考】 ○実際に投函できるよう, 指導者はお礼状を書く相手の宛先を調べておくとよい。 ○R6は, 総合の学習でお世話になった野メダカの会の会長さんや, 児童文化センター宛に手紙を書き, R7は, リレー大会の招待状を保護者宛に書いた。				

〈言葉の学習〉(『俳句を楽しもう』)		6月(1時間…知・技1)
目標	進んで音読したり暗唱したりしながら、俳句を楽しむことができる。	
評価 規準	(①知・技) 易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) (③主体的態度) 学習課題に沿って、易しい文語調の俳句を進んで音読したり暗唱したりするなどして、音読の響きやリズムに親しもうとしている。	
○俳句のきまりを知り、俳句を声に出して読む。		

〈言葉の学習〉(『こそあど言葉を使いこなそう』)		6月(2時間…知・技2)
目標	こそあど言葉の役割を理解して、文を読んだり書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 指示する語句の役割について理解している。(1)カ) (③主体的態度) 学習課題に沿って、指示する語句の役割を積極的に理解し使おうとしている。	
○こそあど言葉を知り、こそあど言葉を使いながら役割を理解する。		
○1学期の言語事項について、まとめのテストをする。		

〈じょうほう〉(『引用するとき』)		6月(3時間…知・技1, B2)
目標	引用の仕方を理解して、文章の中で引用することができる。	
評価 規準	(①知・技) 引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている(2)イ) (②思・判・表) 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) (③主体的態度) 積極的に引用のしかたを学び、学習課題に沿って、本などで調べたことを引用して文章を書こうとしている。	
○引用を知り、引用の決まりを理解する。		
○図書資料から引用した文章を書く。		
○他教科・領域の学習と関連付けるとよい。		

単元	8 ふしぎな出来事についてそうぞうしたことを聞き合おう (『まいごのかぎ』)			6月(7時間…C7)
目標	物語を読み、想像することと音読することを繰り返し、登場人物の行動や気持ちなどについて具体的に想像することができる。			
議題	不思議な出来事の状態について想像したことを聞き合う活動			
評価規準	(①知・技)様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(I)オ (②思・判・表)「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や正確、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(I)エ) (③主体的態度)積極的に登場人物の気持ちの変化を想像し、学習課題に沿って、物語の感想を聞き合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『まいごのかぎ』の初発の疑問を発表し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 『まいごのかぎ』を具体的に想像できるように、不思議な出来事について想像したことを聞き合おう	○変化する「りいこ」の様子や気持ちに関わる疑問をもてるよう、「不思議な出来事」を観点として提示する。	◇積極的に『まいごのかぎ』の登場人物の気持ちの変化などについて興味をもち、これまでに学習した文学的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
	1	○物語を場面ごとに分け、出来事をおおまかに捉える。	○場面を分けるヒントを得られるよう、「場所」「起こったこと」を観点として提示する。	◇「場所」「起こったこと」を基に、おおまかに捉えた出来事の内容について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>
ふかめる	3	○不思議な出来事の状態について想像したことを聞き合う。	○場面の状況をより具体的に想像できるよう、「したこと」「言ったこと」「気持ち」を観点として提示する。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を根拠に、出来事の状態を具体的に想像することができるよう、想像の視点(備考欄参照)を提示する。	◇「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」「気持ちを表す言葉」等、「りいこ」の変化を表す言葉に着目し、その言葉を用いて考えを記述している。 <本文シート①> ◇場面の状況を表す叙述を基に、複数の場面の状況を結び付けて登場人物の行動や気持ちについてより具体的に想像したことを記述している。 <本文シート②>
ふりかえる	1	○『まいごのかぎ』のはっきりした景色について話し合い、単元の学習を振り返る。	○物語を想像することや、想像の仕方のよさを実感できるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、場面の様子を表す言葉や、「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」「気持ちを表す言葉」を基に想像したことに触れ、そのよさについて発言したり記述したりしている。 <ノート③>
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を根拠に、出来事の状態を具体的に想像することができるよう、想像の視点「見る位置」(「(登場人物に)なって感じる」「(登場人物を)見て気付く」と、「見方」(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を提示する。 ○「りいこ」の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

単元	9 分かりやすくほうこくしよう (『仕事のくふう, 見つけたよ』【コラム】符号など)		6月(10時間…B10)
目標	内容のまとまりで段落をつくったり, 段落相互の関係に注意したりして, 経験したことを報告する文章を書くことができる。		
議題	経験したことを報告する文章を書く活動		
評価規準	<p>(①知・技) 改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに, 句読点を適切に打っている。((1)ウ) 段落の役割について理解している。((1)カ) 比較や分類のしかた, 必要な語句などの書き留め方, 引用のしかたを理解し使っている。((2)イ)</p> <p>(②思・判・表) 「書くこと」において, 相手や目的を意識して, 経験したことや想像したことなどから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 「書くこと」において, 書く内容の中心を明確にし, 内容のまとまりで段落をつくったり, 段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えている。(B(1)イ) 「書くこと」において, 書こうとしたことが明確になっているかなど, 文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)</p> <p>(③主体的態度) 内容の中心が明確になるよう, 積極的に工夫して文章の構成を考え, 学習の見通しをもって, 調べたことを報告する文章を書こうとしている。</p>		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○社会科「わたしたちの前橋市」の現場学習をふり返し, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 学習課題 前橋市の特徴について調べたことを報告する文章を書こう	○報告する文章の書き方の工夫に関わる課題意識をもてるように, 「報告する文章に書くこと」「報告する文章の書き方」を観点として提示する。
ふかめる	1 1 2 2 1 1	○グループごとに, 報告する文章に書く内容を話し合う。 ○報告する文章の組み立てを話し合う。 ○報告する文章の下書きをする。 ○グループで互いの下書きを読み返し, 推敲する。 ○下書きを修正しながら清書をする。 ○書いた報告文を読み合い, 感想を伝え合う。	○報告する文章に書く地域を決められるように, 社会の学習プリントやノートのコピー, 地図等を用意する。 ○報告する文章に必要な組み立てを考えられるように, ①「調べたきっかけや理由」②「調べ方」③「調べて分かったこと」④「感想」の構成で書かれたモデル文を提示する。 ○報告する文章にふさわしい表現を用いることができるように, よく使われる表現の一覧を提示する。 ○修正点を明らかにできるように, 「構成」「表現」「段落同士のつながり」を推敲の観点として提示する。 ○「書くこと」や「書き方」についてふり返しながらか書けるように, 以前に提示したモデル文を提示する。 ○報告する文章の構成に着目して感想をもつことができるように, 「構成」「表現」「段落同士のつながり」観点として提示する。
かふえりる	1	○分かりやすい, 報告する文章の書き方について学んだことを振り返る。	○文章の書き方の工夫に関わって振り返ることができるように, 「報告する文章に書くこと」「報告する文章の書き方」を観点として提示する。
<p>【備考】</p> <p>○「ふかめる」過程の中でp103「符号など」を扱う。</p> <p>○グループ編成は, 社会の現場学習を生かす。</p>			

評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇書く内容の中心が明確になるような報告する文章の書き方の工夫への関心を高め, 学習課題について発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

◇集めた材料を比較したり分類したりして, 報告する文章に書く地域を決めている。
<学習プリント②>

◇集めた情報を, 「調べたきっかけや理由」「調べ方」「調べて分かったこと」「感想」の構成に分けて記述している。
<学習プリント②>

◇報告する文章によく使われる表現を用いて, 報告する文章に必要な組み立てで記述している。
<報告する文章②>

◇「構成」「表現」「段落同士のつながり」の観点に基づいて, 友達の文章の修正点について伝えている。
<発言・学習プリント②>

◇適切に改行をしたり句読点を打ったりしている。
<報告する文章①>

◇「構成」「表現」「段落同士のつながり」の観点に沿って, 文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを記述している。
<学習プリント②>

◇学習課題の解決状況に関わって, 進んで内容の中心を明確にして書くことに着目し, 今後に生かせそうな文章の書き方について記述している。
<ノート③>

〈言葉の学習〉(『夏のくらし』)		6月(2時間…B2)
目標	夏を感じたことについて、文章に書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(I)オ (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(I)ア) (③主体的態度) 積極的に語句の量を増やし、学習課題に沿って、その季節らしさを表現した文章を書こうとしている。	
○校庭や地域に出て、夏らしさを感じるものを見つけ、集めた言葉でビンゴをする。 ○身の回りで見つけた夏らしさを感じるものについて文章を書き、書いたものを友達と読み合って交流する。		

〈言葉の使い方〉(『漢字の広場②』)		6月(2時間…B2)
目標	学習した漢字を使い、絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(I)エ (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(I)エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに学習した漢字を確かめ、今までの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。	
○教科書の絵を見ながら、漢字や接続語を用いて宝物を探しに行った男の子の話を作る。 ○考えた話を発表し合う。		

単元	10 本を使って調べよう (『本で知ったことをクイズにしよう』『鳥になったきょうりゅうの話』)			7月(5時間…C5)
目標	図鑑や科学読み物を読んで、驚いたり感心したりしたことをクイズにして出題することができる。			
議題	学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめてクイズを出し合う活動			
評価規準	(①知・技) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)ア) (③主体的態度) 積極的に幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って、本を読んで驚いたり感心したりしたことをクイズにしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『鳥になったきょうりゅうの話』を読んで、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習課題 本を読み、初めて知ったことをクイズにして、クイズ大会をしよう </div>	○個々の興味関心を生かして課題を設定できるように、3人のグループで、初めて知ったことやもっと知りたいことを記述する共有シートを用意する。	◇本を読んで初めて知ったことをクイズにして、クイズ大会をすることへの関心を高め、今までの学習を生かし、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	2 1	○図書室にある本を選んで読み、初めて知ったことをまとめる。 ○本を読んで初めて知ったことをクイズにして、クイズ大会をする。	○図書室の分類や配架の工夫を知ることができるように、司書教諭の話聞く場を設定したり、NDCの一覧や図書室の配置図を提示したりする。 ○多様な本に触れることができるよう、異なる課題や本を選んだ子ども同士でグループを編成する。	◇本や図書室が必要な知識や情報を得ることに役立つことやその理由を記述している。 <ノート①> ◇本を読んで感じることは、一人一人違うことを記述している。 <ノート②>
ふりかえる	1	○学習の振り返りをする。	○読書の意義や図書室の役割のよさについて実感できるように、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、進んで本を読むことの意義に着目し、今後に生かせそうな読書や図書館利用の仕方について記述している。 <ノート③>

単元	11 くらべて読もう (『ポスターを読もう』)	7月 (2時間…C2)
目標	ポスターを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを伝え合うことができる。	
活動	ポスターを比べて読み、共通点や相違点からポスターの目的を話し合う活動	
評価 規準	(①知・技) 比較や分類の仕方を理解し使っている。(2)イ) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) (③主体的態度) ポスターを読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、友達と伝え合おうとしている。	
	○2枚のポスターを比べて読み、共通点や相違点からポスターの目的を話し合う。	
	【備考】 ○R02は、ベン図を用いて共通点や相違点を比較した。	

	〈言葉の学習〉 (『漢字の広場③』)	7月 (2時間…B2)
目標	学習した漢字を使い、絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに学習した漢字を確かめ、今までの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。	
	○絵を見て、場面ごとの出来事や登場人物の行動を想像し、話し合う。	
	○漢字を用いて文を書く。	

<言葉の学習> (『ローマ字』) 7月(4時間…知・技4)	
目標	ローマ字の仕組みを理解し、ローマ字を読んだり書いたりすることができる。
評価 規準	(①知 ・ 技) 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) (③主体的態度) 学習課題に沿って、粘り強くローマ字を読んだり書いたりしようとしている。
○身の回りからローマ字で書かれたものを探し、50音表のアルファベットの配列を見て清音・濁音・拗音の練習をする。 ○長音・促音・撥音の書き方を知り、書く練習をする。 ○清音・濁音・拗音・長音・促音・撥音のある言葉をローマ字で書く。 ○大文字で書くものや複数の書き方があるものを知り、練習する。	
【備考】 ○日常的にタブレットを用いる際、ローマ字入力を使用するようにするとよい。	

単元	12 心をこめて読もう（『わたしと小鳥とすずと』『夕日がせなかをおしてくる』）	9月（2時間…C2）
目標	詩を音読し，思ったことや感じたことを発表することができる。	
議題	『わたしと小鳥とすずと』『夕日がせなかをおしてくる』を音読し，思ったことや感じたことを発表する活動	
評価 規準	(①知・技) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(I)ク (②思・判・表) 「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(I)カ) (③主体的態度) 友達との感じ方の違いに積極的に気付こうとし，詩を読んで思ったことや感じたことを深めようとしている。	
○連の相互関係に着目して，声の出し方（強弱・速さ・抑揚・間）に気を付けながら『わたしと小鳥とすずと』を声に出して読む。 ○連の始まりの言葉に着目して，声の出し方（強弱・速さ・抑揚・間）に気を付けながら『夕日がせなかをおしてくる』を声に出して読む。 ○どちらかの詩を選び，暗唱したり音読発表したりする。		

単元	13 話し合ってみよう (『こんな係がクラスにほしい』)			9月(4時間…A4)
目標	互いの意見の共通点や相違点に着目し、話し合いをして考えをまとめることができる。			
話し活動	新しく作りたい係についての話題で話し合う活動			
評価規準	(①知・技) 比較や分類の仕方を理解し使っている。(2)イ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりしている。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの考えの共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) (③主体的態度) 互いの考えの共通点や相違点に積極的に着目し、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○クラスの係活動を振り返り、2学期に新しく作りたい係についての話題に関わって学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 新しく作りたい係を話し合ってみよう	○テーマに沿って話し合う必要感を感じられるよう、ペアで話し合った結果を発表する機会を設定する。	◇これまでの話し合うことの学習を想起しながら、話し合う必要性に関わって発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	1 1	○新しく作りたい係を考える。 ○グループで話し合い、考えを整理してまとめる。	○新しく作りたい係の目的と根拠を明らかにできるよう、「クラスがよりよくなるために」の視点を提示する。 ○新しく作りたい係を比較することができるよう、「メリット」「デメリット」を書き出す表を用意する。	◇新しく作りたい係の目的と根拠を記述している。 <学習プリント①> ◇共通点や相違点に着目して、情報を比較したり分類しながら記述している。 <学習プリント②>
ふりかえる	1	○話し合いの結果を発表し、学習を振り返る。	○共通点や相違点に着目することのよさに気付けるよう、話し合いの決め手を発表する機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、今後に生かせそうな話し合いの仕方について発言したり記述したりしている。 <ノート③>

単元	14 思い出を伝え合おう (『書くことを考えるときは』)	9月(2時間…B2)
目標	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ) (②思・判・表) 「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度) 粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。	
○ウェビングを用いて経験したことや想像したことを広げ、書く事柄を選ぶ。 ○選んだことを基に短作文を書き、友達と読み合う。		
【備考】 ○テーマ例「夏休みの思い出」「教育実習の思い出」		

単元	15 工夫やひみつを伝えよう (『すがたをかえる大豆』『食べ物のひみつを教えます』)		9月(15時間…知・技1, B8, C6)	
目標	段落と段落とのつながりに気を付けて, 文章を読んだり書いたりすることができる。			
議題	説明する文章を読んで分かったことを生かして, 調べたことを説明する文章を書く活動			
評価 規準	<p>(①知・技) 段落の役割について理解している。(1)カ) 考えとそれを支える理由や事例など, 情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 比較や分類の仕方, 辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>(②思・判・表) 「書くこと」において, 書く内容の中心を明確にし, 内容のまとまりで段落をつくったり, 段落相互の関係に注意したりして, 文章の構成を考えている。 (B(1)イ)</p> <p>「書くこと」において, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 「読むこと」において段落相互の関係に着目しながら, 考えとそれを支える理由や事例との関係などについて, 叙述を基に捉えている。(C(1)ア)</p> <p>(③主体的態度) 積極的に考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉えたり, それらを明確にして書き表し方を工夫したりしようとし, 学習の見通しをもって, 文章の説明の工夫を見付けてそれを生かして書こうとしている。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○食べ物の工夫を説明する試しの文章を書く。	○分かりやすい文章に対する課題意識をもてるよう, 友達と書いた文章を読み比べる機会を設定する。	◇工夫を説明する文章のよい書き方に関わって, 「考え」と「理由・事例」との関係に着目して疑問や感想を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>
	1	○試しの文章と『すがたをかえる大豆』を読み比べ, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 学習課題 文章のひみつを見付け, 食べ物の工夫を文章に書こう	○事例の書き方のよさや特徴に着目できるよう, 『すがたをかえる大豆』の「よく分かったこと」「よく分かった理由」を観点として提示する。	◇工夫を説明する文章の構成や段落の役割, 及びそれらの関係について関心を持ち, これまでに学習した文学的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る 1	1	○『すがたをかえる大豆』を読んで, 文章全体を「はじめ」「中」「終わり」に分ける。	○文章の構成を捉えられるように, 「はじめ」「中」「おわり」の構成や, それぞれのまとまりの役割を提示する。	◇書かれている内容やその順序を比べながら『すがたをかえる大豆』の段落の構成について発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	1	○「はじめ」を読み, 段落の役割を話し合う。	○「はじめ」の中心となる文を捉えられるよう, 「問いと答え」を観点として提示する。	◇「はじめ」の段落の中心となる文や段落の役割を結び付けながら, 複数の叙述を根拠に説明の仕方について考えたことを発言したり, 記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
	1	○「中」を読み, 段落の役割を話し合う。	○「中」の中心となる文を捉えられるよう, 「書かれている内容の順番」を観点として提示する。	◇「中」の段落の中心となる文や段落の役割を結び付けながら, 複数の叙述を根拠に説明の仕方について考えたことを記述している。 <発言・学習プリント②>
	1	○「おわり」を読み, 段落の役割を話し合う。	○「おわり」の段落の役割を捉えられるよう, 「はじめとのつながり」「中とのつながり」を観点として提示	◇「終わり」の段落の中心となる文や段落の役割を結び付けながら, 複数の叙述を根拠に説明の仕方について考えたことを発言

			する。	したり、記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
ふ か め る 2	1	○食べ物の工夫について調べたことを報告する文章を書くための手順を知る。	○説明する文章の書き方を捉えられるように、『食べ物の工夫を教えます』の中で、「食べ物の工夫の説明に必要なこと」を観点として提示する。	◇「中」の段落に書く、段落の中心となる内容を集めて発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	1	○報告する文章を書く食べ物を考え、決める。	○工夫されている食べものについてのアイデアを膨らませられるように、ウェビングマップを用意する。	◇食べものと工夫の例を複数個記述している。 <発言・学習プリント②>
	1 + 社会	○食べ物の工夫を調べ、取材カードに書く。	○項目に沿って情報を集められるように、「食べ物の工夫」「工夫する理由」を記述できる取材カードを用意する。	◇説明する文章の「考え」と「理由・事例」のつながりが明確になるように、内容ごとのまとまりに分けて文章を組み立てている。 <説明する文章②>
	3	○「取材カード」を基に、下書きとアドバイスを繰り返す。	○文章の構成に着目してアドバイスできるように、「『はじめ』『中』『おわり』のつながり」「『中』での工夫の順番」を観点として提示する。	◇説明する文章の「考え」と「理由・事例」のつながりを意識してアドバイスをしたり下書きを修正したりしている。 <発言・説明する文章②>
	1	○アドバイスを基に、清書する。	○カードに書いた内容を文章にできるように、文と文とのつなぎ方の例や、拡大した教材文を提示する。	◇適切な「考え」と「理由・事例」のつながりで清書をしている。 <説明する文章①>
	1	○書いた文章を読み合い、感想を書く。	○構成に沿って説明文を書けたことを実感できるように、試しの説明文と比べて読む機会を設定する。	◇文章の構成に関わって、説明する文章が書けたことやその理由を発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
ふ り か え る	1	○学習を通して発見した、工夫を説明する文章のよい書き方について話し合い、学習の振り返りをする。	○文章の構成や段落の役割に着目して考えをまとめられるように、「始め－中－終わり」、「段落のつながり」を観点として提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に説明的文章の構成や段落の役割に着目して、今後に生かせそうな工夫を説明する文章の書き方について考えたことを話し合っている。 <発言③>
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
<p>【備考】</p> <p>○他教科・領域の学習のまとめと関連付けて実施する。</p> <p>○図書室の参考図書を活用するとよい。</p> <p>○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。</p>				

〈言葉の学習〉(『漢字の組み立て』)

9月(2時間…知・技2)

目標 漢字のへんやつくりを意識して、漢字を読んだり書いたりすることができる。

評価
規準 (①知 ・ 技) 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ
(③主体的態度) 今までの学習をいかして、漢字のへんやつくりなどに関心を持ち、積極的に漢字の構成を理解しようとしている。

- 2枚のカードで漢字を作って「へん」「つくり」を知り、同じ「へん」の漢字を集める。
- 同じ「つくり」の漢字を集める。

単元	16 場面を比べながら読み、想像したことを聞き合おう (『ちいちゃんのかげおくり』)			10月(11時間…C11)
目標	物語を読み、想像することと音読することを繰り返し、登場人物の気持ちの変化や正確、情景などについて、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。			
話し活動	場面を比べながら読み、想像したことを聞き合う活動			
評価規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(C1)オ (②思・判・表) 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C1)エ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C1)オ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C1)カ (③主体的態度) 登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、物語を読んだ感想をまとめようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1 1	○『ちいちゃんのかげおくり』を場面ごとに分けて出来事をおおまかに捉え、感想を書く。 ○初発の感想を発表し合い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習課題 『ちいちゃんのかげおくり』を具体的に想像できるように、場面を比べながら読み、想像したことを聞き合おう </div>	○場面の移り変わりに着目できるように、場面ごとの人物の行動や場面の様子についての感想を記述する活動を設定する。 ○場面の移り変わりによる物語の変化に対する課題意識をもてるよう、感想を場面ごとに整理して提示する。	◇人物の様子や場面の様子に関わらせて感想を記述している。 <div style="text-align: right;"><ノート③></div> ◇積極的に『ちいちゃんのかげおくり』の登場人物の行動や気持ちなどについて興味を持ち、これまでに学習した文学的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <div style="text-align: right;"><発言・ノート③></div>
ふかめる	5	○場面の状況を想像しながら読む。 ・第一場面(最初～P.18 L.9) ・第二場面(P.18 L.11～P.21 L.9) ・第三場面(P.21 L.11～P.24 L.2) ・第四場面(P.24 L.4～P.27.L6) ・第五場面(P.27.L8～最後)	○場面の状況をより具体的に想像できるように、「したこと」「言ったこと」「気持ち」を観点として提示する。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を根拠に、出来事の状況を具体的に想像することができるよう、想像の視点(備考欄参照)を提示する。	◇「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」「気持ちを表す言葉」等、「ちいちゃん」の変化を表す言葉に着目し、その言葉を用いて考えを記述している。 <div style="text-align: right;"><本文シート①></div> ◇場面の状況を表す叙述を基に、複数の場面の状況を結び付けて登場人物の行動や気持ちについてより具体的に想像したことや、それを基にした感想を記述している。 <div style="text-align: right;"><本文シート②></div>

	1	○一番心に残った場面についての感想を書き友だちと読み合う。	○心に残った場面についての感想をもてるように、5つの場面の中から印象に残った場面の感想を書く機会を設定する。	◇共有した感想を基に、一人一人の感じ方などに違いがあることについて記述している。 ＜ノート②＞
ふりかえる	1	○『ちいちゃんのかげおくり』のはっきりした景色について話し合い、単元の学習を振り返る。	○物語を想像することや、想像の仕方のよさに関わって単元の学習の達成感を得られるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に音読したり書き込みをしたりしながら、想像したことを友達と聞き合ったことのよさを記述している。 ＜発言・ノート③＞
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 ＜テスト②＞

【備考】

- 想像の視点…「見る位置」(「(登場人物に) なって感じる」「(登場人物を) 見て気付く」), 「見方」(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)
- 「ちいちゃん」の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。
- まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。

単元	17 ●●●●を決めよう (『おすすめの一さつを決めよう』)			10月(8時間…A8)
目標	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、考えをまとめることができる。			
話し活動	互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動			
評価規準	(①知・技)比較や分類のしかたを理解し使っている。(②イ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) (③主体的態度)粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○これまでの話し合いの経験を振り返り、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習課題 ●●●●を決めるために話し合い、話し合い上手になろう </div>	○よりよい話し合いの仕方に対する課題意識を高められるよう、1年生からの要望を提示し、試しにおすすめの一さつを決める活動を設定する。	◇進んで話し合いの進め方に関心を持ち、これまでに経験した話し合いを想起しながら、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言③>
ふかめる	2 4	○話し合いの仕方を知る。 ○●●●●を決めるために、グループで話し合う。	○話し合いに必要な役割や進め方をイメージできるよう、話し合いの様子が収録された音声CDを用意する。 ○役割や進め方を意識しながら話し合いを行うことができるよう、「意見を聞く言葉」「意見を促す言葉」「意見をまとめる言葉」を提示する。 ○話し合いのコツを見いだすきっかけを得られるよう、複数回話し合う機会を設定するとともに、話し合いのたびに振り返る機会を設定する。	◇司会などの役割や話し合いの進め方について気付いたことを発言したり記述したりしている。 <ノート①> ◇話し合う際に、「意見を聞く言葉」「意見を促す言葉」「意見をまとめる言葉」を適切に用いている。 <話し合いの様子(録画)②> ◇話し合う際に、互いの意見の共通点や相違点を示しながら、意見を話したりまとめたりしている。 <発言②>
かふえり	1	○学習の振り返りをし、よい聞き方について話し合う。	○今後の話し合いに生かそうとする意識を高められるように、話し合ったことと、決められたこととの関わりを記述する学習プリントを用意する。	◇学習課題の解決状況に関わって、進んで互いの意見の共通点や相違点を示しながら話し合ったことに着目し、今後に生かせそうな話し合いの仕方について記述している。 <学習プリント③>

【備考】

○「ふかめる」過程で意見を整理する際には、p.167「分ける・くらべる」を活用する。

〈言葉の学習〉(『修飾語を使って書こう』)

10月(2時間…知・技2)

目標 修飾と被修飾との関係について理解し、読んだり書いたりすることができる。

評価
規準 (①知 ・ 技) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。((1)オ)
主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係について理解している。((1)カ)
(③主体的態度) 今までの学習をいかして、修飾と被修飾の関係について理解しようとし、積極的に言葉の役割や性質を捉え直そうとしている。

○主語・述語・修飾語が用いられている文を読み、修飾語の働きや種類について知る。

○主語・述語のみの文に修飾語を加え、文を詳しくする。

〈言葉の学習〉(『秋のくらし』)

10月(1時間…B1)

目標 秋を感じたことについて、文章に書くことができる。

評価
規準 (①知 ・ 技) 語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)
(②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
(③主体的態度) 積極的に語句の量を増やし、学習課題に沿って、その季節らしさを表現した文章を書こうとしている。

○校庭や地域に出て、秋らしさを感じるものを見つけ、集めた言葉でビンゴをする。

○身の回りで見つけた秋らしさを感じるものについて文章を書き、書いたものを友達と読み合って交流する。

単元	18 民話をしようかいしよう (『三年とうげ』)			11月(9時間…C9)
目標	登場人物の行動や気持ちに気を付けて、民話や昔話を読んだり物語を書いたりすることができる。			
議題	民話を読み、特徴を考えて紹介する活動			
評価 規準	(①知・技) 様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使い, 語彙を豊かにしている。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において, 登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えている。(C(1)イ) 「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化について, 場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度) 積極的に場面の移り変わりや文章の構成に注意し, 学習課題に沿って物語を紹介しようとしたり, 物語を書こうとしたりしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか かむ	1	○『三年とうげ』を読んで学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習課題 民話の特徴を考えながら読み, おすすめの民話を紹介しよう </div>	○物語作りの見通しをもてるように, 出来事を想像するきっかけとしてたから島の地図を提示する。	◇積極的に『三年とうげ』の組み立てに関心をもち, これまでに学習した文学文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	1	○『三年とうげ』の特徴を考える。	○『三年とうげ』の特徴を捉えられるよう, 「教訓」「リズム」という観点を提示する。	◇行動や様子を表す言葉に着目し, 『三年とうげ』の特徴について発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	2	○『三年とうげ』のあらすじをまとめる。	○物語の組み立てを考えることができるよう, 「物語の設定(時間, 場所, 登場人物)」「出来事」を物語を整理する観点として提示する。	◇物語の組み立てと関わらせながら, 登場人物の変化について想像したことを記述している。 <学習プリント②>
	2	○図書室で別の民話や昔話を選んで読む。	○自分の選んだ民話や昔話の特徴を, 『三年とうげ』と比較しながら捉えられるように, 『三年とうげ』で用いた観点を提示する。	◇設定や出来事に着目し, 『三年とうげ』と自分の選んだ民話や昔話を比べて分かったことを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
	1	○選んだ民話や物語を紹介する。	○様々な物語の組み立てに触れることができるように, 違う話を選んだ子ども同士でグループを編成する。	◇場面の移り変わりや文章の構成に関わって, 物語を紹介しようとしている。 <発言③>
		○民話や昔話の特徴を考えて紹介したことについて話し合い, 学習の振り返りをする。 ○まとめのテストを行う。	○民話の特徴を考えて紹介したことについての達成感を得られるよう, これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって, 積極的に物語の組み立てに着目して, 今後に生かせそうな物語の書き方について記述している。 <発言③> ◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト②>

〈言葉の学習〉(『ことわざ・故事成語』)		11月(4時間…知・技2, B2)
目標	ことわざ・故事成語に興味をもち、調べたことをまとめることができる。	
評価 規準	(①知・技)長い間使われてきたことわざや故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ) (②思・判・表)「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度)積極的にことわざや故事成語の意味を知ろうとし、学習課題に沿って、調べたことをまとめて書こうとしている。	
○知っていることわざや故事成語を出し合う。 ○ことわざや故事成語について知り、国語辞典などを使って意味を調べる。 ○好きなことわざや故事成語の意味や文例をカードにまとめ、カードを集めてことわざ・故事成語事典を作る。		

〈言葉の学習〉(『漢字の意味』)		11月(2時間…知・技2)
目標	漢字の意味を意識して読んだり書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知・技)漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) 第3学年までに担当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (③主体的態度)今までの学習を生かして、漢字と仮名を用いた表記を理解しようとし、積極的に文や文章の中で使おうとしている。	
○同じ発音で、意味の違う言葉があることを知り、文章にあてはまる漢字を考える。 ○これまでに習った漢字から、同じ読み方で、意味の異なる漢字を見つけて文を作る。		

〈言葉の学習〉(『短歌を楽しもう』)		11月(1時間…知・技1)
目標	進んで音読したり暗唱したりしながら、短歌に親しむことができる。	
評価 規準	(①知・技)易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) (③主体的態度)学習課題に沿って、易しい文語調の短歌を進んで音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しもうとしている。	
○同じ発音で、意味の違う言葉があることを知り、文章にあてはまる漢字を考える。 ○これまでに習った漢字から、同じ読み方で、意味の異なる漢字を見つけて文を作る。		

単元	19 しょうかいする文を書き，感想を伝え合おう（『わたしの町のよいところ』）		12月（8時間…B10）
目標	町のよさを紹介する文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の紹介文のよいところを見付けることができる。		
議題	町のよさを紹介する文章を書く活動		
評価 規準	(①知・技) 考えとそれを支える理由について理解している。((2)ア) (②思・判・表) 「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ) (③主体的態度) 積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付け，学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	2	○町のよさを紹介する文章を作り，紹介文を書くことの難しさから学習課題を設定し，学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 学習課題 自分が考える町のよいところについて紹介する文章を書こう </div>	○紹介文を書くことの見通しをもてるように，題材の設定から共有までの学習の過程を提示する。 ◇これまでに学習した作文の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	1 4 2	○紹介するものを決める。 ○紹介文の組み立てを考え，紹介文を書く。 ○紹介文を読み合い，感想を伝え合う。	○町のよさについて考えを広げることができるよう，ウェビング図を用意する。 ○紹介文の組み立てを考慮することができるよう，「紹介するもの・説明」「紹介したい理由」「まとめ・呼びかけ」を文章構成の観点として提示する。 ○自分の書いた紹介文と友達の書いた紹介文の構成を比較しながら捉えられるように，紹介文を組み立てる観点を再提示する。 ◇町の施設とその施設のよさを関連付けて，ウェビング図に表したりしている。 ◇紹介文の組み立てと関わらせながら，紹介したいものについて記述している。 ◇観点に沿って，自他の紹介文のよいところを指摘している。 <学習プリント②>
ふりかえる	1	○学習を振り返る。	○書こうとしたことが明確になっていることが自覚できるように，作成した紹介文と試しに書いた紹介文とを比較する機会を設定する。 ◇文章の構成に関わって，自分の紹介文のよくなったところについて発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント③>
【備考】 ○R6，7は，みらいプロジェクトで発信するものについて紹介文を書いた。			

〈言葉の学習〉(『冬の暮らし』)		12月(4時間…B2, 知・技2)
目標	冬を感じたことについて、文章に書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(I)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(I)ア) (③主体的態度) 積極的に語句の量を増やし、学習課題に沿って、その季節らしさを表現した文章を書こうとしている。	
○校庭や地域に出て、冬らしさを感じるものを見つけ、集めた言葉でビンゴをする。 ○身の回りで見つけた冬らしさを感じるものについて文章を書き、書いたものを友達と読み合って交流する。 ○2学期の言語事項について、まとめのテストをする。		

〈言葉の学習〉(『漢字の広場④』)		12月(2時間…B2)
目標	学習した漢字を使い、絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(I)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっていることを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(I)エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに学習した漢字を確かめ、今までの学習を生かして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。	
○教科書の絵を見て、町の様子を説明したり、提示された漢字の読み方や書き方を確かめたりする。 ○提示された漢字を使って、町の様子を説明する文を書く。		

20 詩のくふうを読もう		12月(3時間…C3)
目標	自分の好きな詩を選び、感想や考えをもつことができる。	
評価 規準	(①知・技) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) (③主体的態度) 進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。	
○6編の詩を音読し、詩の工夫を見つける。 ○6編の詩の中から好きな詩を選び、おもしろいと思うところを友達と話し合う。 ○R7は、学習発表会のプレゼントとして家族への感謝の詩を書いた。		

21 四枚の絵を使って		1月(2時間…B2)
目標	物語の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる。	
評価 規準	(①知・技) 段落の役割について理解している。((1)カ) (②思・判・表) 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (B(1)イ) (③主体的態度) 書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。	
○四枚の絵を並び替えて、一つの物語を作る。 ○考えた内容を発表し合う。		

単元	22 場面の様子が伝わるように書こう (『つたわる言葉で表そう』)			1月 (5時間…B5)
目標	描写を工夫して、出来事の様子を詳しく伝える文章を書くことができる。			
議題	冬休みの出来事を、表現を工夫して文章に書く活動			
評価 規準	(①知・技) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(I)ア) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(I)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(I)ウ) (③主体的態度) 相手に伝わる文章を書くための語句を進んで増やして使い、学習課題に沿って、伝えたいことを文章にしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○モデル文を読み、出来事を詳しく伝える書き方について話し合い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 出来事の様子を詳しく伝えられる表現を工夫して、作文を書こう	○出来事の様子を詳しく伝えられる表現についての問題意識を高めることができるよう、描写や文末表現を工夫したモデル文を提示する。	◇積極的に出来事の様子を詳しく伝えられる表現に関心を持ち、これまでの書くことの学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	1 1 1	○選んだ出来事を具体的にし、材料を集める。 ○書きたいことの中心を決め、下書きする。 ○下書きを読み返し、文末表現や句読点、かぎの使い方などを修正して清書する。	○出来事の様子を詳しく伝えられるよう、思い出す際の視点として「五感」を提示する。 ○文末に現在形と過去形を交互に用い、臨場感をもって出来事の様子を伝えられるよう、第1時で提示したモデル文の文末に着目する機会を設定する。 ○出来事の様子を詳しくする表現に向けて修正を行うことができるよう、「様子を表す言葉」「文末」等の視点を提示し、文章を読み合う機会を設定する。	◇様子や行動、気持ちや性格を表す語句を用いて、選んだ出来事に関わる具体的な情報を集めている。 <学習プリント①> ◇文末に、現在形と過去形を交互に用いている。 <下書き②> ◇出来事の様子を詳しくする言葉を増やしたり、文末表現を書きかえたりしている。 <清書②>
ふ り か え る	1	○伝わる言葉に気を付けて文章を書いたことに関わって、学習の振り返りをする。	○伝わる言葉に気を付けて文章を書いたことに対する達成感を得られるよう、「お気に入りの言葉」を、完成した文章を評価する観点として提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって、進んで考えたことや思ったことを表す言葉に着目し、今後に生かせそうな文章の書き方について記述している。 <ノート③>

〈言葉の学習〉(『漢字の広場⑤』)		1月(2時間…B2)
目標	学習した漢字を使い、絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(I)エ (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(I)エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに学習した漢字を確認、今までの学習を生かして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。	
○教科書の絵を見て、学校内の様子を説明したり、提示された漢字の読み方や書き方を確認したりする。 ○提示された漢字を使って、学校の様子が分かるように日記を書く。		

単元	23 オリジナルの物語を作ろう！(『たから島のぼうけん』)			1月(8時間…B8)
目標	登場人物の行動や気持ちに気を付けて、民話や昔話を讀んだり物語を書いたりすることができる。			
議題	民話を読み、組み立てを生かして物語を書く活動			
評価規準	(①知・技)様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(I)オ (②思・判・表)「書くこと」において、書き表し方を工夫している。(B(I)ウ) (③主体的態度)進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○宝物を探す冒険について試しの文章を作り、オリジナルの物語を作る楽しさから学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 地図を手がかりにそうぞうし、ぼうけんのようすがよく伝わるお話を作ろう	○物語作りの見通しをもてるように、出来事を想像するきっかけとしてたから島の地図を提示する。	◇これまでに学習した文学文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる1	1	○宝の地図から創造を広げ、物語の	○「始まり」「出来事」「解決」「おすび」という組み立てで物語を捉えられるよう、物語の挿絵を4つに分けて提示する。	◇行動や様子を表す言葉に着目し、『三年とうげ』の組み立てについて発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	2	○『三年とうげ』のあらすじをまとめる。	○物語の組み立てを考えることができるよう、「物語の設定(時間、場所、登場人物)」「出来事」を物語を整理する観点として提示する。	◇物語の組み立てと関わらせながら、登場人物の変化について想像したことを記述している。 <学習プリント②>
	2	○図書室で別の民話や昔話を選んで読む。	○自分の選んだ民話や昔話の組み立てを、『三年とうげ』と比較しながら捉えられるように、『三年とうげ』で用いた観点を提示する。	◇設定や出来事に着目し、『三年とうげ』と自分の選んだ民話や昔話を比べて分かったことを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
	1	○選んだ民話や物語を紹介する。	○様々な物語の組み立てに触れることができるように、違う話を選んだ子ども同士でグループを編成する。	◇場面の移り変わりや文章の構成に関わって、物語を紹介しようとしている。 <発言③>

単元	24 つながりのひみつを探ろう (『ありの行列』)			2月 (8時間…C8)
目標	段落相互の関係に着目して科学読み物を読み、読んで理解したことを基にした感想を伝え合うことができる。			
議題	科学読み物を読み、感想をもち、伝え合う活動			
評価 規準	(①知・技) 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(C(1)カ) (②思・判・表) 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) (③主体的態度) 進んで一人一人の感じ方の違いに着目し、学習課題に沿って、科学読み物を読んだ感想を伝え合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○『ありの行列』を読み、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 『ありの行列』の段落のつながりのひみつを探ろう	○段落同士のつながりに問題意識がもてるよう、段落ごとにばらばらにした短冊を並べ替える活動を設定する。	◇積極的に『ありの行列』の構成や内容に関心をもち、これまでに学習した説明的な文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	4 1	○段落ごとの中心となる語や文を話し合い、内容をまとめる。 ○新しい説明文の段落を並べ替える。	○段落同士のつながりや文章の全体像が捉えやすくなるよう、理科の問題解決の流れを提示する。 ○段落同士のつながりについて学んだことを実感できるよう、新しい説明文を段落ごとにばらばらにした短冊を用意する。	◇説明的な文章を読んで理解したことに基づき、感想や考えを記述している。 <学習プリント②> ◇説明的な文章における指示する語句と接続する語句の役割、段落相互の役割について記述している。 <学習プリント①>
ふ り か え る	1 1	○段落のつながりについてまとめ、単元の学習の振り返りをする。 ○まとめテストを行う。	○段落のつながりの秘密について考えたことに対する達成感を得られるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割に着目して説明的文章を読んだことに関わって、今後に生かせそうなことを記述している。 <ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

単元	25 プレゼンテーション大作戦 (『お気に入りの場所, 教えます』)			2月 (8時間…A8)
目標	話の中心や話す場所に応じて話し方を工夫しながら, 1年間で学んだことを紹介する発表を行うことができる。			
議題	グループで学校の自慢できることについて発表資料を作り, 発表する活動			
評価規準	<p>(①知・技) 相手を見て話したり聞いたりするとともに, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら話している。((1)キ) 考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)</p> <p>(②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において, 相手に伝わるように, 理由や事例などを挙げながら, 話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ) 「話すこと・聞くこと」において, 話の中心や話す場所を意識して, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)</p> <p>(③主体的態度) 進んで言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意し, 学習の見通しをもって, グループで練習し, 発表しようとしている。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	<p>○1年間の学習内容を振り返り, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。</p> <p>学習課題 おうちの人が「いい1年だったね」と思ってくれるような, 附属小学校自慢プレゼンテーションをしよう</p>	○資料を用いて発表することに対する課題意識がもてるよう, プレゼンテーションのモデルを提示する。	◇積極的にプレゼンテーションに興味をもち, これまでに学習した話すこと・聞くことの学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	3 2 1	<p>○グループで, 自慢したいことに関わる提示資料を決め, 発表原稿を作成する。</p> <p>○他のグループとプレゼンテーションを見合い, アドバイスを基に, 練習を繰り返す。</p> <p>○学級でプレゼンテーションを行う。</p>	<p>○話の中心を明確にして構成できるよう, 資料や発表原稿のモデルを例示する。</p> <p>○聞き手への伝わり方を意識できるように, 発表原稿の読み方や資料の使い方の観点を提示する。</p> <p>○友達の前でプレゼンテーションのよさに気付けるよう, 「組み立て」「話し方」に関わる観点を示した学習プリントを用意する。</p>	<p>◇話の中心が明確になるように理由や事例を組み立て, 原稿を書いている。 <学習プリント②></p> <p>◇「話の組み立て(考え-理由-まとめ)」「話し方(視線・強弱等)」に気を付けて, プレゼンテーションを修正している。<練習②></p> <p>◇言葉の抑揚や強弱, 間の取り方を意識して, プレゼンテーションの練習や本番で話したり聞いたりしている。<発表(録画)①></p>
ふえりるか	1	○プレゼンテーションの感想を伝え合い, 学習を振り返る。	○客観的にプレゼンテーションを振り返り, 達成感を得られるよう, 保護者からの感想を提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって, 進んで「話の組み立て」「話し方」に着目し, 今後に生かせそうなプレゼンテーションの仕方について記述している。 <ノート③>
<p>【備考】 ○学習発表会と関わらせて実施することができる。(R7は, みらいプロジェクトの発表で実施した。)</p>				

〈言葉の学習〉 1年間の学習をふりかえろう (『三年生を振り返って』)		2月 (1時間…B1)
目標	1年間の学習の中から書くことを選んで、身に付いた言葉の力についての振り返りを書くことができる。	
評価 規準	(②思・判・表)「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度)進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。	
<input type="checkbox"/> 1年間の学習を振り返る。 <input type="checkbox"/> 自分が身に付けたと思う言葉の力を書き、友達と伝え合う。		

〈言葉の学習〉 (『カンジー博士の音訓かるた』)		2月 (4時間…知・技4)
目標	学習した漢字を使い、進んで文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 第3学年までに担当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (③主体的態度) 今までの学習を生かして、漢字の音訓や送り仮名に着目し、漢字を適切に使った文を積極的に作ろうとしている。	
<input type="checkbox"/> 音読みと訓読みのある漢字を使い、グループで音訓カルタを作る。 <input type="checkbox"/> 作った音訓カルタで遊ぶ。 <input type="checkbox"/> 3学期の言語事項について、まとめのテストをする。		

〈言葉の学習〉 (『漢字の広場⑥』)		2月 (2時間…B2)
目標	学習した漢字を使い、絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 第2学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表)「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに学習した漢字を確かめ、今までの学習を生かして、漢字を使った文を作ろうとしている。	
<input type="checkbox"/> 教科書の絵を見て、漢字の読み方や書き方を確かめる。 <input type="checkbox"/> 提示された漢字を使って、絵に合う文を書く。		

単元	26 『モチモチの木』についてみんなで話そう（『モチモチの木』）		3月（13時間…C13）	
目標	物語を読み、想像することと音読することを繰り返し、登場人物の気持ちの変化や性格、情景などについて、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像することができる。			
議題	場面を比べながら読み、想像したことを聞き合う活動			
評価規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) (③主体的態度) 登場人物の性格について場面の移り変わりや結び付けて粘り強く想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことをまとめて友達と伝え合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『モチモチの木』を読み、初発の感想や疑問に思ったことを書く。	○『モチモチの木』を具体的に想像することへの必要感をもてるよう、「はっきりしないこと」を感想の観点として提示する。	◇物語を読んで感じたことや考えたことを、叙述を根拠に発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>
	1	○初発の感想を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 『モチモチの木』を具体的に想像できるように、登場人物を中心に読み、想像したことを聞き合おう	○『モチモチの木』を読むことへの課題意識をもてるよう、初発の感想を内容ごとに整理したものを提示する。	◇積極的に『モチモチの木』の登場人物や場面の状況に興味をもち、これまでに学習した文学的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	7	○「おくびょう豆太」「やい、木い」「霜月二十日のばん」「豆太は見た」「弱虫でも、やさしけりゃ」の場面について、想像したことを友達と聞き合う。	○様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を根拠に、出来事の状況を具体的に想像することができるよう、想像の視点(備考欄参照)を提示する。 ○場面の状況をより具体的に想像できるよう、「したこと」「言ったこと」「気持ち」を観点として提示する。	◇登場人物や場面の状況を表す言葉に着目し、想像する際の根拠として線を引いたり叙述同士をつないだりしている。 <本文シート①> ◇複数の視点で想像したことを関連付けて、物語の場面について具体的に想像したことを記述している。 <本文シート②>
	2	○豆太の気持ちの変化や性格について、想像したことを話し合う。	○自分と友達の考えを比べながら聞き合うことができるよう、友達の考えと「似ているところ」「違うところ」という観点を提示する。	◇共有した感想を基に、一人一人の感じ方などに違いがあることについて発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>
ふりかえる	1	○単元の学習を振り返り、今後の物語の読み方について話し合う。	○単元の学習の成果を実感できるよう、単元の最初に書いた感想を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に音読したり書き込みをしたりしながら、想像したことを友達と聞き合ったことのよさを発言したり記述したりしている。 <ノート③>
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○様子を表す言葉やたとえの表現を根拠に、「豆太」の様子や気持ちを含む出来事の状況を具体的に想像することができるよう、想像の視点「見る位置」(「(登場人物に) なって感じる」「(登場人物を) 見て気付く」と、「見方」(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を提示する。 ○「豆太」の様子や気持ちを含む出来事の状況について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

国語科 3年

時間	内容
I	OCRT学力検査（国語）を行う。